

<p>問 01</p>	<p>森林整備が実施されないことにより森林の多面的機能が発揮されず、国民生活及び国民経済の安定に対して支障が生じる可能性が考えられるのは、如何なる場合か</p>	
<p>答</p>	<p>当該森林の規模、樹種や林分の条件によって影響の程度や発現様式は異なるが、間伐等の森林整備が実施されないと森林の有する多面的機能が低下し、国民生活・国民経済の安定に対して以下のようなリスクを生じる可能性がある。</p> <p>1 間伐が実施されないと単一樹種の立木密度が高まり、林内の光環境が十分ではなく、林床植生がほとんど見られない状況となる。立木密度が高まると、樹冠遮断量も増加することから、降雨によってもたされた水が遮断され、土壌への水供給量が減少する。また、林床植生がなくなると水の土壌への浸透能が低下する。植生の単純化は、土壌の保水能力の低下にもつながる。このようなことから、間伐されない放置森林が増加すると森林の水資源貯留機能が低下し(根拠①, ②)、特に渇水期に下流の都市地域の住民の生活、経済活動に悪影響を与える可能性がある。</p> <p>2 森林の保水能力の低下は、大雨が降った時に河川の増水を抑える洪水調整機能の低下を招き(根拠①, ②)、下流域の国民生活・国民経済に悪影響を与える可能性がある。</p> <p>3 間伐遅れの人工林では、林床堆積物の撥水性や降雨時の地表面の硬化によって降雨が浸透しにくく表面流が発生しやすいため、土壌の劣化や栄養分の流出などが生じやすく(根拠③, ④)、木材の生産基盤としての環境を悪化させる可能性がある。</p> <p>4 間伐遅れの人工林は、森林の山地崩壊防止機能の低下(根拠③, ⑤)を招く可能性がある。</p> <p>5 間伐遅れ、枝打ちのされていない人工林では、林床の受光量が減ることにより林床の植生がほとんど見られない状況となるため、植物種の多様性が減少する。また、そうした植物に依存する動物の多様性にも影響が及ぶ可能性がある(根拠⑥, ⑦)。</p>	
<p>根拠 (文献番号)</p>	<p>知見</p>	<p>データ等</p>
<p>①</p>	<p>タイトル：間伐の実施は水源涵養機能の発揮にどのような影響を与えるか Q&A：問 03-1</p>	
<p>②</p>	<p>タイトル：水源涵養機能が高度に発揮される森林とは、どのような森林か Q&A：問 04</p>	
<p>③</p>	<p>タイトル：間伐の実施は土砂災害防止／土壌保全機能の発揮にどのような影響を与えるか Q&A：問 03-8</p>	
<p>④</p>	<p>タイトル：土壌保全機能が高度に発揮される森林とはどのようなものか。 Q&A：問 07</p>	
<p>⑤</p>	<p>タイトル：土砂災害防止機能が高度に発揮される森林とはどのようなものか</p>	

	か。
	Q&A : 問 06
⑥	タイトル : 間伐の実施は生物多様性保全機能の発揮にどのような影響を与えるか
	Q&A : 問 03-15
⑦	タイトル : 枝打ちの実施は生物多様性保全機能の発揮にどのような影響を与えるか
	Q&A : 問 03-16

<p>問 02</p>	<p>伐採跡地が放置されて再造林や更新管理が行われないことにより森林の多面的機能が十分発揮されず、国民生活及び国民経済の安定に対して支障が生じる可能性が考えられるのは、如何なる場合か</p>	
<p>答</p>	<p>伐採跡地が放置され再造林や更新管理が行わないと、野生動物の食害などにより森林が再生しない場合もあり、当該森林の規模に応じて、森林の様々な機能により支えられている国民生活・国民経済の安定に対して、以下のようなリスクを生じる可能性がある。</p> <p>1 森林の土砂災害防止機能の低下により林地の崩壊などの危険性が高まる可能性がある。皆伐が実施されると根系の崩壊防止力を低下させるため、一時的に土砂災害防止機能は低下する。森林が造成されることにより根系が発達し再び斜面の土砂流出防止機能は回復するが、何らかの理由で森林が回復しないと土砂災害の危険が長期間継続する(根拠①, ②)。</p> <p>2 皆伐が実施されると林地は直接雨滴衝撃を受けるようになるため、皆伐後に林地からの土砂流出が増大する。(根拠①, ③, ④)。土砂流出の増大が、下流域でのダムの堆砂や水質汚濁を招く可能性がある。</p> <p>3 皆伐跡地の森林の更新が行われないと、水資源貯留の場である森林土壌(根拠⑤)が損なわれることによって、貯水機能、洪水調整機能などの水源涵養機能が低下することとなる。</p> <p>4 皆伐跡地が放棄され、森林の更新がされないと、生物多様性の保全に大きな障害が生まれる可能性がある。皆伐は、森林性の絶滅危惧種など、生息地の喪失や断片化をもたらす。その多くは森林の再生にともなって復活する可能性があるが、攪乱の強度や頻度によっては、回復は妨げられ、生物多様性の長期的な低下に陥る可能性がある。また阻害要因がシカの食害である場合、シカの不嗜好性植物のみが生育するため、多様性の著しく低い植生となる恐れがあり、植物に依存する動物にもその影響がおよぶ可能性がある(根拠⑥)。</p> <p>5 森林の更新ができないと、地域によっては、気候緩和機能や大気浄化機能が低下する可能性がある(根拠⑦, ⑧)。</p>	
<p>根拠 (文献番号)</p>	<p>知見</p>	<p>データ等</p>
<p>①</p>	<p>タイトル：皆伐の実施は土砂災害防止／土壌保全機能の発揮にどのような影響を与えるか Q&A：問 3-10</p>	
<p>②</p>	<p>タイトル：地種(裸・草・森)の違いは土砂流出防止機能の発揮にどのような影響を与えるか Q&A：問 08-12</p>	
<p>③</p>	<p>タイトル：地種(裸・草・森)の違いは表面侵食防止機能の発揮にどのような影響を与えるか Q&A：問 08-1</p>	
<p>④</p>	<p>タイトル：地種(裸・草・森)の違いは表層崩壊防止機能の発揮にどのような影響を与えるか</p>	

	Q&A : 問 08-5
⑤	<p>タイトル： 地種（裸・草・森）の違いは水資源貯留機能の発揮にどのような影響を与えるか</p> <p>Q&A : 問 05-1</p>
⑥	<p>タイトル： 皆伐の実施は生物多様性保全機能の発揮にどのような影響を与えるか</p> <p>Q&A : 問 03-17</p>
⑦	<p>タイトル： 森林と市街地など他の土地利用の違いにより快適生活環境形成状況はどのように異なるか</p> <p>Q&A : 問 10-10</p>
⑧	<p>タイトル： 快適環境形成機能が高度に発揮される森林とはどのようなものか</p> <p>Q&A : 問 09</p>